

【知事臨時記者会見】 6月2日

● 令和4年度6月補正予算案

新型コロナウイルス感染者の病床使用率が、昨日145日ぶりに10%を切り、今日は8%台になる見込み。このまま弱毒化する方向であれば、制限緩和に向けて議論が活発化する見込み。

昨日の九州地域戦略会議において、めりはりのある対策をすべきと申し上げた。

今回の補正額は43.6億円で、補正後は5,755.3億円。補正予算額の内訳は、新型コロナ対策として8.6億円。コロナ対策も3年目となり、昨年度の2月補正と、今回の当初予算で相当な額を積んでいる。今回は、介護施設や外来診療に必要な備品購入の継続的な支援のため額は小さい。

財政的調整のための補正マイナス34.7億円は、令和3年12月に国の経済対策が成立し、2月補正で国の事業に手を挙げ、採択された場合に当初予算で実施するため計上していた額を、採択されたため当初予算を下す補正をしたもの。

そのほか子育て世帯用の特別給付金1.1億円は、5月26日に専決処分されているため、今議会で承認を得たい。

● 原油価格・物価高騰対策

おいしく栄養のある給食が提供できるように

食材費が前年度比で8%の増加。対象施設の私立の保育所、幼稚園、私立認定こども園、定時制高校、特別支援学校、私立中高専修学校、SSPアスリート寮への支援に1.6億円。市町の学校は、市町で検討が進んでいる。給食の質の確保を大切にしていく事業。

人の想いに寄り添うCSOと福祉作業所のためにできること

こども宅食や子ども食堂は、寄付された食材や日用品で運営されている。不足分は各運営団体で購入しているが、物価高騰で負担が増加。今後、利用者の増加が予測されるため、サービスの維持・向上のため支援する。

こども宅食(11団体)は、1団体あたり上限50万円。子ども食堂(45か所)は、1団

体あたり上限10万円。

先日、九州初となるコミュニティフリッジを開設した。登録後、アプリから鍵を開け、24 時間いつでも食料品などを受け取れる仕組み。ニーズが高いため 100 万円を支援する。

佐賀型障害者就労施設応援金として、福祉作業所の事業維持や利用者の工賃維持のため、1事業所一律20万円を支援する。

今、事業者の皆さんが「前を向く」ために

- ・高騰で収益が悪化している事業者 17.9 億円

燃油高騰対策支援金は、燃油を多く利用する事業者である観光バス、建設業者、貨物輸送事業者などが対象。燃油の使用量に応じた支援金を交付する。

軽油重油等は 10 円／1リットル、LP ガスは 20 円／1 m³、上限 200 万円の支援を行う。4月から7月までの4か月間に購入した燃油への補助。8月以降は、その後検討。

原材料高騰対応応援金は、仕入れ額の上昇で収益が悪化した事業者。インクが高騰した印刷業者や、原材料の大豆が高騰した醤油業者などが対象。法人に20万円、個人に15万円。

- ・再エネ導入に取り組む事業者

自家消費型の再エネ発電設備を設置する場合の補助。補助率2分の1で、発電設備は上限500万円、蓄電池設置は上限375万円。

- ・消費喚起を図る商店街や業界団体

商品券やクーポンの発行支援として補助率10分の10。集客イベントフェアの実施には補助率5分の4の経費補助。事業主体は商店街や商工団体、グループなど。これまで支援してきた飲食店も含まれるが、それ以外を優先したい。

飼料価格高騰により影響を受ける畜産農家を支援します

肥料の問題は、今後の状況に応じて9月議会で対応したい。

国の配合飼料価格安定制度は、国、飼料メーカー、畜産農家が基金を積み立て、価格高騰時（四半期の価格が、直近1年間の平均額を上まった場合）に積立金から農家へ補填金が交付される仕組み。

飼料価格高騰を受け、直近1年間の平均額より大きい額が基金から補填される。多額の補填金を交付するため、原資である農家の積立金負担額が令和4年度から引き上げられた。この引き上げ部分を補助する制度をつくった。交付には、家畜の食べこぼし対策などの飼料費削減の取り組みを要件にし、低コスト経営への体質改善することを併せて、増額分全額を支援する。

● 通常補正分

吉野ヶ里遺跡“最大のミステリーゾーン”にせまる

5月から10年ぶりに発掘調査を再開。場所は、日吉神社の跡地。この付近は、30年前、北墳丘墓から銅剣、管玉が出土し、話題となったこともあり、隣接する日吉神社は以前から注目されていた。

9月からの本格的な発掘調査開始に合わせ、全国初となる発掘現場のライブ配信やハイライト映像を配信する。リアルタイムで発掘作業の様子を体感してもらい、現場から質問に答えるなど、双方向の会話を実現したい。さらに、1週間分の発掘調査を解説付きのハイライト映像にまとめ、毎週配信。調査は2年間。

この他にも、ファミリー層向けの発掘調査体験会などを企画している。

KMAP（唐津マリンアクティビティパーク）のハブ拠点“唐津ビーチパーク”の整備へ

誰もがさまざまなアクティビティができるよう、ガイド機能をもつ拠点を設ける。また、西の浜ビーチをシーカヤックやビーチヨガ、SUPができるように再整備する。

本年度の予算は、設計調査の予算。令和6年度のオープンを目指す。

医療ケア児が就園しやすい環境を

医療的ケア児を受け入れる際、看護師を配置する必要がある。保育を必要とする子どもを受け入れる保育所や認定こども園では、看護師配置費用が全額公費負担される。しかし、

保育を必要としない子どもを受け入れる幼稚園や認定こども園では、事業者の負担が幼稚園では3分の2、認定こども園の一部では全額負担になっている。

医療的ケア児は、両親のどちらかが就労せずに在宅で見守るため、保育を必要としない子どもに該当し、就園先が看護師配置費用を負担しなければならない。そのため、医療的ケア児を預ける環境が整っていない。

この事業者負担分を独自に支援する。医療的ケア児の受け入れが促進され、医療的ケア児も家族も安心して暮らせる社会にしたい。

くらしの移動を支えるタクシーを、より使いやすく

タクシー業界は、コロナ禍での乗客減少、UD 対応の設備投資、乗務員の高齢化などの課題を抱えている。高齢者や障害者にやさしい公共交通機関のタクシーを大事にしたい。

現在、タクシー事業者は、運転免許返納者に運賃を1割引するサービスを実施している。免許返納の後押しに、県が1割上乗せし、2割引にする制度をつくった。令和6年度まで。

また、使いやすい環境整備への支援として、UD タクシーや福祉タクシー購入補助金を増額する。担い手を増やすための説明会への支援も行う。

生まれ変わる佐賀駅で「SAGA BAR」第二幕

2023 年春、佐賀駅の西側にできる半屋外の空間に、民間運営の「SAGA BAR」を設置する。店舗設置に必要な初期投資費用を補助し、佐賀の器や伝統工芸品を指定する。

サザンスギの森林 100 年構想スタート

56 年かけてサザンスギ開発に成功。現状では、県内のスギが、すべてサザンスギになるには 160 年かかる。これを短縮するため、まず母樹を増やす採穂園を造成し、苗木生産者にハウス造成への補助をする。この整備で、苗木の生産量が増え、計算上 100 年後に短縮。今回の予算化で、令和 8 年までに苗木がすべてサザンスギになる見込み。

県内のスギ花粉が少なくなれば、花粉症対策で移住する人が増えるのではと期待する。

色落ち軽減に向け できることからチャレンジ

有明海西南部地域のノリの枚数と単価が、秋芽も冷凍網も壊滅的。できることは、す

べて取り組むことにした。まず、プランクトンを減らすためのサルボウを放流する。また、潮の流れを良くするため海底に水路を造り、シミュレーションを実施、分析し対策する。

知的財産をもっと身近に。みんなで守り、育てる

知的財産の条例は、鳥取県、青森県、佐賀県が条例化していた。

知事就任後、「にじゅうまる」「いちごさん」「サガンズギ」が長い時間と努力の末、開発に成功した。県民・事業者・組合は、守り育てるという観点で、知的財産に向き合うべきだと考える。全国3番目に制定された佐賀県の知的財産条例をリニューアルし、皆さんに伝わる形で前文も含め全面改定し、6月議会に提案する。

わかりやすい寸劇のCMを制作する。農家や事業者の皆さん方に、寸劇を取り入れたセミナーを開催、弁理士の相談会や研修を通して、知的財産に強い佐賀をつくりたい。

先日、九州知事会で、フードアイランド九州を目指すなら、知的財産を大事にしなければと提案した。九州はひとつ。それぞれのブランドを大切に作るチーム。